

§ VI 保 健 体 育

1 概 要

昭和34年度においてとりあげるべきものはつぎのものと思われる。

A 第10回全国学校保健大会の誘致決定

本県の学校保健を振興するねらいとして、県内の全学校が一つの目標に向かって努力精進することが最も近道であるところから、全国学校保健大会を県内で開催することとし、

- a, 学校病の予防を中心とし、各中心校にテーマを分担して研究をすすめて来た。
- b, 保健主事連絡会をつくり、相互研鑽を行うとともに学校保健推進の活動中心となったことは力強い。

B 学校給食の拡充強化

学校給食が、学校教育の中でどんな位置づけをもっているか、この根本的な理解を深めるのに、

- a, 学校給食普及講演会は非常に大きな役割を果たして来た。県内十数ヶ所が自主的に講師を依頼して積極的動きが見られ、実施校の数も増加すると同時に、完全給食への拡充した学校も増してきた。
- b, 学校給食学習指導の徹底

学習指導要領改訂の機運にあるので各校においてそれぞれ学習内容を研究し、全国との資料交換等を行い趣旨の徹底に努めて来た。

- c, パン品質等の改善

喜んで食えるパンは、楽しい給食の出発であり、最終目的でもあるので極力検査と指導に努め、その品質向上を図り効果を収め得た。

C 研究指定校の顕著な成果

保健も体育もそれぞれ出張単位に研究校を指定し、研究のセンター的役割と同時に、学習指導のモデルとして、地方開発に尽した役割は非常に大きく、その研究物の内容も高く評価されている。現に日本体育指導者連盟より、全国の優秀学校として本県の高・中各1校と小学校2校計4校が表彰をうけたのを見てわかる。さらに保健に関する研究校および協力校は、第10回全国学校保健大会を迎えてその研究資料の整理にとりかかっている。

D 学校体育学習指導の徹底

学校指導要領の改訂に伴い県内各小・中学校にその趣

旨をじゅう分に徹底させるため次のことを重点的にとりあげた。

- a, 指導者養成講座の開催

1, 各出張所単位より、10名の適任者を選んで、(文部省より松島茂善氏を招き)中央養成を行い、これらの指導者が、それぞれの出張所に帰って、地方伝達講習会を行って第一年次を終った。

- b, これ等の基幹となる内容は、県内の有能な現場指導者より、編しゅう長をあげ手引き書を作成したものが、

- 1, 小学校体育指導の手引き
- 2, 中学校保健体育学習指導の手引きである。

- c, さらに特殊な内容として、ダンス、水泳、スキーについて実技講習会を実施した。

水泳実技講習は東北地区からの参加を得文部省、日本水連と共催で行い、大いに効果をあげた。

E スポーツ五ヶ年計画第一年次の実施

本県スポーツ振興は、何によって、いかなる方法で実現できるかを明かにし、県民の理解を深め、同時に大きな協力を得て、この第一年目をスタートしたことは見逃せない。……ひろいあげるならば……

- a, 第16回国民体育大会夏季水泳競技を会津若松市において開催することの誘致に成功したこと。

- b, 猪苗代——磐梯スキー場がその拡充整備を得て、……一躍日本一の第一級ゲレンデとなり、オリンピック選手の合宿に指定されたこと。世界の名手サイラーをして垂涎せしめる立派なものとなったこと。

- c, 平市の総合グラウンド計画着工を始め、県内各市町村において大なり小なりの運動場、又はスポーツセンターの如き施設計画が進められて来ていることと、

- d, 指導者の資質向上について

- 1, 青少年スポーツ活動指導者の養成
- 2, 青少年スポー活動リーダーの養成
- 3, 学校体育指導者養成講座

等を行い中央と地方との関連においてその目的達成に努力して来た。

2 学校保健

A 第8回学校保健研究大会

7月4・5の両日、喜多方市立第二小学校において開催した。参加人員約800名、開会式、表彰式、研究発表講演分科会および分科会結果発表等あり盛会であった。特別講演「学校病の予防」と題する栗山重信博士の講演は深い感銘をあたえると共に今後の本県における「学校